

# 御陵の風

令和元年10月発行 学校便り



文責:校長 藤井浩彦

## ◆ご協力、ありがとうございました！



【販売手伝いの様子】

前の企画・準備から幾度となく会議等を重ねていただいたおかげで当日を迎えることができました。また、保護者の方と子ども達が一体となって各ブースの運営をすることで、手伝いをした子ども達も充実感でいっぱいだったのではないかと考えています。保護者の皆様には、今後子ども達笑顔のために、引き続きのご理解とご協力をいただきたいと切に願っております。

## ◆初めての関西方面への修学旅行

9月18日～20日に、2年生が関西方面への修学旅行に行ってきました。

1日目は神戸の「防災センター」、京都の「平等院鳳凰堂」、そして京都の旅館へ。2日目は、「一日京都市内タクシー研修」、夜は修学旅行実行委員会が企画・運営した「レクリエーション」。最終日は、「奈良公園」そして「東大寺」を巡り福岡へ…のスケジュールでした。

すべての活動において、2年生の子ども達は明るく前向きで随所に「気配り」の溢れる素晴らしい修学旅行となりました。お世話をしていただいた添乗員の方々から「本当に素敵な子ども達ですね！私がパンフレットを配っていると『私が配ります』と自然と声をかけてくれるお子さんがいたり、全員への指示を積極的に行ってくれたり、何よりとっても素直で…今年、たくさんの学校に関わり添乗させていただきましたが、御陵中の生徒さんはその中でもナンバーワンの素晴らしい子ども達でした！」とお褒めの言葉をいただきました。右上の写真は、とても盛り上がったレクリエーション後のものです。2年生の子ども達の仲のよい共感的な人間関係の溢れるとっても素敵なレクリエーションでした。2年生のこれからの大いなる成長がますます楽しみになる充実した修学旅行でした。



【レクリエーション後全員で！】

## ◆心をひとつに



【3学年合唱練習の様子】

10月に入り全学年で合唱の練習が始まりました。朝から心地よい歌声が校内に響き渡っています。「合唱」はクラスの団結力をさらに高めていく素晴らしい取組です。「心をこめてたくさんの人を感動させる」とか「心をひとつに歌い、金賞をとる」など、クラスの目標に向かって全員がわがままを捨て、共に歩み寄り練習を重ねていくことが大切です。様々な困難を乗り越えた先にこそ、聴く人を感動させる合唱があります。これからさらに子ども達は心をひとつに練習に取り組んでくれるものと期待しています。

本番は10月25日(金)9時50分より大野城まどか

がにあて1年生の部よりスタートします(開会式は9時20分)。当日は合唱の他、弁論発表・美術部展示紹介・被災地派遣研修報告・吹奏楽部演奏があります。たくさんの皆様のご来場を心よりお待ちしております。

## 『ONE TEAM(ワッチ-ム)』

学校の詩 ⑤

ラグビーワールドカップで日本中が盛り上がっています。みなさんご存じの通り、日本代表はロシアに勝利した後、当時世界ランキング2位のアイルランドを破りました。試合後の田村優選手のインタビューでは、日本代表のヘッドコーチであるジェイミー・ジョセフ氏が試合前に俳句を選手への激励のメッセージとして詠んでくれたと言っていました。その内容は…

誰も勝つと思ってないし 誰も接戦になるとかってないし  
誰も僕らがどれだけ犠牲にしてきたのか分かんないし 信じてるのは僕たちだけ…

この言葉を聞いた選手達は勇気づけられそして大いに奮い立ったそうです。このことを知って、あの試合を改めて思い返すとさらに感動が増してきます。どれだけのことを犠牲にして、どれだけの激しい練習をしてきたのか、彼らしか知るよしもないのですが…彼らが勝ったのは決して「奇跡」ではありません。厳しい練習に裏付けされた自信と誇り、そして仲間を強く信じる気持ちがあったからこそその勝利だったということです。

第3戦のサモアに対しては、日本は31対19でリードしたまま終盤を迎えました。80分を過ぎて到来したチャンスで、日本は「スクラムトライ」を狙ったのです。体格差があり、サモアに勝てるはずのない日本が、大歓声に押されるかのようにスクラムでサモアを圧倒したのです。そして、そこから4トライ目をあげ勝利したのです。試合後の記事に指揮官や選手の言葉が載っていました。

「1人の選手が何をしたということではなく、チーム全体でフォーカスした結果だと思う」「ヒーローはいない。」

サモアに負けなかったスクラム。試合前日までの練習で、出場しない選手達が「仮想サモア」となって練習台になったそうです。「歴史的な勝利、歴史的なスクラムは、出場メンバーだけで成し遂げたものではなく、まさに、創り上げたのは“ONE TEAM”だった」と記事はしめくられていました。

予選リーグ最終戦は、4年前のワールドカップで大敗し、ベスト8に進めなかった原因となった、宿敵のスコットランドでした。多くの方がテレビで観戦されたのではないかと思います。私ももちろん自宅で観させてもらいました。思わず声を出して応援していました。まさに「死闘」でした。後半のスコットランドの猛攻、そして終盤の一進一退の戦い…本当に手に汗握る試合でした。日本選手だけでなく、負ければ予選敗退となるラグビーの伝統国スコットランドの選手も、凄まじいまでの闘志溢れるプレーでした。日本を応援する私としては、終盤、日本代表チーム全員の心と体がひとつになった命がけの「ディフェンス」に心が震えました。ノーサイドの瞬間、「ヤッター」と自宅でガッツポーズをしている自分がいました。心から感動しました。勇気をもらいました。一生懸命な人間の姿はこんなにも美しいものなのかと思いました。どこまでも厳しい練習に裏付けされた選手達の1プレー1プレーに全身全霊を注ぐ姿に心打たれました。まさに「ONE TEAM」、これなんだと感じました。よく「チームワーク」という言葉を使いますが、その言葉をも遙かに超える「チーム力」がラグビー日本代表にはあるのだと感じました。「ONE TEAM」の精神が今の日本代表の強さの秘密…そして、そんな日本代表チームは、多くの人々が応援したくなる素敵なチームなのだと思います。

様々な国の選手がいる日本代表チームは、練習以外の時間に日本文化を学ぶことにも積極的に取り組んできたそうです。キャプテンのリーチマイケル選手をはじめ、日本代表の他国籍の選手達は、日本人以上に日本文化を大切にしているとも言われていました。様々な選手のインタビューを観てもそれを感じることが出来ます。私たちに愛国心や感謝の気持ちを教えてくれているかのようです。

予測困難なこれからの時代、様々な人々がいる中で「ONE TEAM」の精神をもって、今まで以上に互いを理解し、共に協力し生きていくことこそ、とても大切なことであるのではないかと思います。ある報道番組で、これから日本という国が目指さないといけない、模範となるモデルが「ラグビー日本代表」の姿にあると言っていた人がいました。

御陵中学校でも学級・学年を超えて「ONE TEAM」となって、さらに素敵な学校となるようにしていかなければ…と、ラグビー日本代表の選手達から勇気づけられた私は、自分を鼓舞するのでした。

◆このたび台風19号により亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心より祈念いたします。最後に…

そんな中で、ラグビーカナダ代表チームの釜石市でのボランティア活動に私は大変心を打たれました。人間の尊さと素晴らしさを改めて感じさせられました…【校長：藤井浩彦】